



「知りたい 見たい やってみたい」から「分かった！できた！やったー！」へ — 深い学びを目指したピア・ラーニングを通して —

今年度の「学校努力点」は、上記のテーマを掲げ、全校で取り組んでいます。低学年は「友達との話し合いや会話の中で、友達の考えを自分の考えと比較し、それらをアウトプットできる子」、高学年は「友達と自分の考えを比較しながら、話し合いや会話を行い、自分の考えを変えたり、自分の考えに根拠のある自信をもったりし、それらを相手に伝えることができる子」「新たな考えを友達と生み出すことができる子」を目指す姿とし、自分の考えを広げ深めることができるように授業の工夫をしています。前期の各学年の取り組みの一部を報告したいと思います。

1年生の取り組み

生活科の時間に、自己紹介で好きな遊びを紹介したり、国語科で絵日記を発表したりする活動をしました。話し手はみんなに伝わる大きさの声で話すことを意識し、聞き手は拍手やハンドサインを使って反応を示すようにしました。呟きも多く、「僕と一緒に」「ちょっと違う」などの声が上がっていました。国語科「夏の思い出を話そう」の学習では、「・・・でよかったですね。わたしも・・・したいと思いました。」という話形を活用することで、発表者に感想を伝えることができました。また、「はい・いいえ」で答えて終わる内容ではない質問をすることを意識することで相手に何か伝えようと頑張る姿が見られました。

2年生の取り組み

「日直スピーチ」や「聞き方名人」の活動を通し、友達の意見にリアクションをする取り組みを日常的に行っています。道徳科「お月さまとコロ」の学習では、友達に素直に謝ることができない主人公の気持ちを想像し、「どんな表情をしていたか」を絵で表す活動を取り入れました。「怒らせてしまって悲しい気持ち」「嫌な気持ちだからこんな顔」など、主人公を身近に感じることができました。また、班ごとの話し合い活動では、ホワイトボードを用いて、主人公が友達に謝ろうと決めたのはどうしてかを考え、発表し合いました。友達の意見に「私と同じ」「なるほど」とリアクションをしながら、自分と同じ考えや異なる考えを認め合うことができました。



3年生の取り組み

「ともだちや」を題材にした道徳の授業を行い、友達の意見に対しハンドサインを使って自分の考えを示したり、グループ活動で全員が発表することができるような場面を作ったりしました。グループで交流する時には、友達に助言をしながら自分の考えを深めたり、友達の意見を聞くことで自分の考えを持ったりすることができました。今後は、ハンドサインで自分の考えを示すだけでなく、「同じで・・・」「違って・・・」「似ていて・・・」などの話形を使い、自分の考えを述べるができるようにしていきたいです。



4年生の取り組み

多くの教科でタブレット端末を利用し、友達と意見交流したり、課題を達成するために協働学習したりするなど、様々な場面で対話的活動を取り入れています。社会科「水はどこから」の学習では、ダム必要性についてタブレット端末のコラボノート EX アプリを用いて話し合いをしました。また、ダムに対する考えが異なる児童で小グループをつくって話し合いました。「そんな考え方があるなんて知らなかった」「違う考えだけど自分の意見の参考にしたい」など、友達と自分の考えを比較したり、自分の考えに根拠をもったりすることができました。



5年生の取り組み

算数科の学習では、答えを導き出すための過程に重点を置き、授業を行っています。「合同な図形」では、合同な三角形をかくための条件について考えました。「辺の長さや角の大きさを測ればいい」という意見を基に、三角形の辺の長さや角の大きさを定規や分度器、コンパスを使って測りました。そのうちに、「全部測らなくてもかけるのではないか」という声上がり、より少ない情報でかく方法を考えました。見つけた方法を小グループで発表し合うと、「なるほど!」「これではかけないのでは?」と、考えながら学ぶ様子が見られました。また、振り返りでは、「一人では気が付けなかった方法も、友達と話し合うことで気付くことができた」と、共に学ぶことの喜びを実感しているようでした。



6年生の取り組み

多くの教科でタブレット端末を利用し、自分の意見を友達に紹介したり、友達の意見を見たりすることで、互いの考えを知り、自分の考えに生かしています。また、意見交流がしやすい雰囲気をつくるために、友達と考えを交流する時間を多くとっています。意見交流の時間には、進んで友達に声を掛け、多くの意見を取り入れようとする姿が多く見られています。また、体育科の授業を始め、グループで活動をするときには、どのようなメンバーで行うとよりよいのか、グルーピングについても自分たちで考えて行っています。自分の得意を生かして、友達を助けていけるように、教科ごとでの得意・不得意をみんなで話し、よりよい学び合いができるようになってきています。

きりのは組の取り組み

1学期に行った努力点の授業では、自転車の正しい乗り方について考えました。プリントをホワイトボードに貼り付ける場面では、高学年の児童が貼る手伝いをする様子を見て、低学年の児童も意欲的に手伝おうとする姿が見られました。授業の中で、発問にうなずいたり、首を横に振ったりすることで対話が成立すると考え、活動を工夫しています。また、登校時や職員室への入室時、廊下での挨拶など場に応じた挨拶から対話へと発展していくとよいと考え、日々繰り返し練習を行っています。



後期も、話し合いにおけるグループの構成や、タブレットの効果的な活用の仕方を考え、対話的活動の時間を十分に確保することで、仲間と楽しく学習し、深い学びへとつなげていけるよう工夫していきます。